

住民説明会での質問や意見



Q 12月に決定とは、プラン策定過程があまりにも拙速ではないか。

A 全国的にも胆江医療圏でも医師不足などの地域医療崩壊を防ぐため、時間的な猶予がある状況ではありません。今のところ予定通りのスケジュールで進めていきます。

Q どこに住んでいても、安心して医療を受けられるべきだ。

A プランでは、地域医療を安定して継続するために救急・急性期医療を担っ

ていくこと、超高齢社会対応した在宅医療など、きめ細かな地域医療体制を講じていくことなどを掲げています。このように、市の医療施設全体でこの地域の医療を支えていくものですから、どこに住んでいても医療を継続して受けることができます。

Q プランとは理想や理念を示すものではないのか。このプランには夢や希望がない。

A 医療資源が限定される中で、できるところから改革を行うという考え方で、極めて現実的なものを想定して盛り込んでいるものです。

Q 江刺の診療所についてはプランに載っていないが、なぜか。

A 平成26年度から市立診療所として廃止の方針であるので載せていません。

意見 賛成・反対のはざまで身動きが取れなくなっ

て、気が付いたら手遅れ、となることを一番危惧している。手遅れになる前に改革が必要だと思う。

Q 民間でも大企業と中小企業では財務会計は違うもの。財務、組織を統一することこそ効率的ではない。

A 別々の自治体であればその考えもありますが、奥州市という一つ自治体の中で、別々の運営方法をとることとは効率的ではないものと考えています。

Q 効率を重んじる全部適用より、自治体病院の持つ理念を体现できる一部適

用で統一すべきだ。

A 地方公営企業法の理念は、経済性と公共の福祉の増進を図るものです。全部適用に移行しても、理念を損なうものではありません。

Q 診療所の付属化によって、まごころ病院の医師、看護師に負担がかかることが懸念される。

A そのようなことにならないように、医療施設間の連携体制を確立しなければならぬと考えます。

Q 在宅医療を広げていくということだが、具体的なものが見えない。机上の空論ではないか。

A 胆江医療圏は在宅医療の実績が低い状況です。診療所の今後の体制に関わらず、市として取り組んでいかねければならない重要課題であると認識しています。このプランは基本構想ですので、具体的な数値までは提示していません。

Q 在宅医療で各家々を訪問するより、入院施設



1カ所に集めて診療する方が効率的ではないか。

A 入院するまでもなく、通院もできない患者や家族の理解を得て、訪問診療を行うものです。市が在宅医療を推進していくことが、地域医療を安定的に展開していく道だと考えます。

意見 終末期の患者は、自宅で最期を迎えたいと考えているようだ。交通事情をケアするなら、ぜひ在宅医療、介護を積極的に進めてほしい。

Q 特別養護老人ホームのまえさわ苑と羽衣荘は、病床化により大きな影響を受

けると考えられるが、どう対応するのか。

A ご不便をお掛けする部分はありますが、在宅医療への移行や、他の医療施設との密接な連携で対応したいと考えています。

Q 現場の医師や看護師は、病床化に反対しているのでは。病床化しないように対応することが市当局・自治体病院の役割ではないのか。

A これから訪れる超高齢社会への対応や医師不足対策など、地域医療を継続していくための一環として病床化を提案しているものです。職員だけでなく地域住民の皆

さんにも理解されるように努めていきます。

Q 病床化により、看護・介護に当たる家族の負担が増えることが懸念される。

A 訪問診療により、自宅で診療が受けられるというメリットもできます。かかりつけ医と病院が連携することにより、胆江管内での入院体制を整えていきます。

Q 超高齢社会を迎えるのに、入院施設をやめるということは理解できない。衣川には、他に入院施設がないのだから、このまま維持してほしい。

A 病床を維持しながら、医師確保を進めるのは非常に困難です。病床後は、2つの市立病院を中心に、介護との連携を図りながら、最も適切な医療を受けられる体制を構築していきます。

Q 衣川診療所は、保健・医療・福祉の三位一体で進めてきている。衣川には医療機関がここしかない。病床化をするということは、こ

の一角が崩れてくる。

A 保健・医療・福祉の体制に病床が不可欠かということは、専門家でも議論が分かれるところです。しかし、診療所機能は継続させなければならぬ最も重要な機能だと考えています。

意見 前沢診療所では医師が1人だけということ

だったが、その1人に24時間365日頼むということがあっていいのか。勤務労働条件の緩和を図るという意味で、病床化も仕方ないと考える。

Q 県立病院が2つある奥州地区で、市の財政状況も厳しい中、赤字を抱えながら市立病院を維持しなければならぬのか。

A 救急搬送の13割ほどを総合水沢病院が担っています。この分を県立2病院に全て任せるほど、2病院には余裕がありません。市としての責任を果たしていきたいと考えています。

Q 市の財政が逼迫する中、総合水沢病院を建設す



るとなると、第二の夕張市になりはしないか。

A 事業費が決まったら、市で払っていけるかどうかの判断をしなければなりません。市民の理解が得られる範囲、財政の力が許す範囲でのものしか建てられないと考えます。改革プランでは、その検討に入らせてください、というものです。

Q 総合水沢病院建て替えの費用、場所、医師の人数など、具体的なものがこのプランには何も示されていない。

A 今回の改革プランでは、総合水沢病院の移転改



意見 救急医療が県立胆沢病院に一極集中しているのは問題であり、総合水沢病院での受け入れは25割もないと思う。県立江刺病院は常勤医師7人で同じ人数を引き受けている。総合水沢病院をしっかり救急医療に対応できる施設にすべきと考える。

築を前提に検討したい、ということです。実施計画ではありませんので、具体的な数値はありません。診療科などは27、28年ごろに決めることにより、事業費などがみえてくると考えています。